

## 常願寺川河口で観察された蜃気楼

著者	吉村 博儀
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	9
ページ	101-102
発行年	1986-09-20
URL	<a href="http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=519">http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=519</a>

短 報

常願寺川河口で観測された蜃気楼

吉村 博儀

富山市科学文化センター

富山湾で、春から初夏にかけて上暖下冷の空気層を通して見える、いわゆる春の蜃気楼はその観測の多くが魚津市とその周辺地域に限られている。筆者はこの現象を富山市横越地区の常願寺川河口左岸で観測できたので報告する。

昭和61年4月14日、この日の最高気温は富山市で21.9°C、風も弱くいわゆる蜃気楼日和であった。午後1時30分頃魚津から滑川方面にかけて像が伸び始め同50分頃には実像の上に倒立の虚像ができ始めた。さらに午後2時過ぎには滑川方面の見透しが大変よくなり、いわゆる3像の蜃気楼に成長したが(写真1, 3)10分後には像が伸びるだけになり、やがて消滅した。その後、午後3時過ぎまで魚津方向に蜃気楼を観測できた。

蜃気楼現象は4月18日(写真5)、5月8日及び5月13日にも近くの富山市浜黒崎地区で筆者によって観測された。

常願寺川河口とその周辺での観測記録があまりない理由として、対岸の魚津・滑川にかけては山が海岸線までせまっていて、景色が独立して見えにくいいため蜃気楼ができてもしっかり確認しにくいことがあげられる。

一方、冬に上冷下暖の空気層を通して見えるいわゆる冬の蜃気楼も筆者によって昭和60年の12月18日から61年の3月4日にかけて当地で計8回観測された。また、5月23日には富山市浜黒崎地区で観測された(写真6)。この現象は実像の下に倒立の虚像ができるもので、春の蜃気楼と比較して長時間観測可能である。

文 献

- 藤原咲平, 大森虎之助, 田口克敏, 1919. 蜃気楼調査第二報. 気象雑纂, 2  
Fraser A. B. and W. H. Mach, 1976. *Mirages. Scientific American*, 234:102-111.





写真1：滑川市街方向の蟹気楼

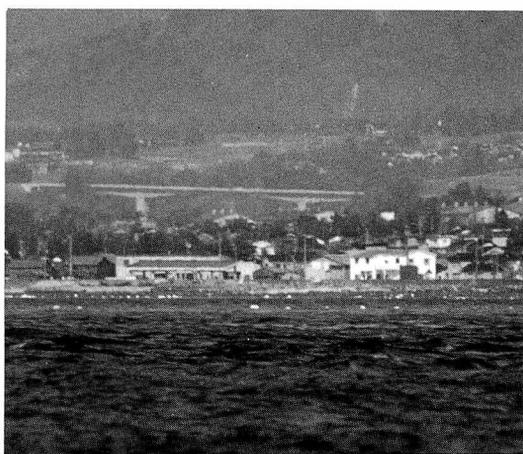


写真2：蟹気楼がないときの滑川市街方向



写真3：滑川漁港方向の蟹気楼

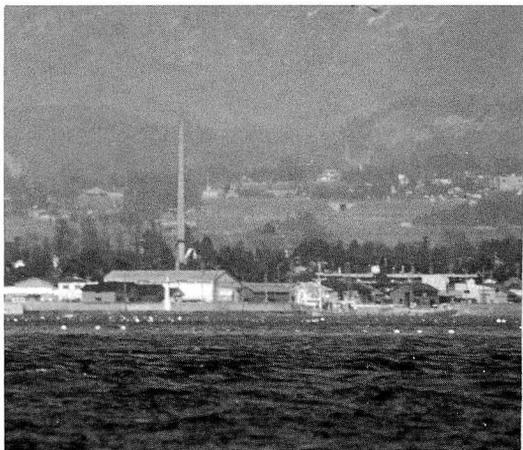


写真4：蟹気楼がないときの滑川漁港方向



写真5：岩瀬方向の船の蟹気楼



写真6：生地方向の冬の蟹気楼